第２回ソーシャル・キャピタル政策展開研究会　議事要旨

<table>
<tr><td>日時</td><td colspan="2">2007 年 10 月 31 日（水曜日）13 時 00 分～16 時 00 分</td></tr>
<tr><td>場所</td><td colspan="2">株式会社日本総合研究所　東京本社 101Ａ・101Ｂ会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出席者</td><td>研究会委員</td><td>中野区政策研究機構所長　澤井安勇氏、大阪大学大学院国際公共政策研究科教授　山内直人氏</td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構　石田祐氏、東北大学大学院経済学研究科准教授　西出優子氏、社団法人北海道未来総合研究所理事長　原勲氏</td></tr>
<tr><td>一般聴講者</td><td>３０名程度</td></tr>
<tr><td>日本総研側</td><td>事務局</td></tr>
<tr><td>議事進行</td><td colspan="2">１．開会
２．議事　ソーシャル・キャピタル政策展開について
〇ヒューマン・キャピタルとソーシャル・キャピタル
報告者　（社）北海道未来総合研究所　原勲氏
〇海外におけるソーシャル・キャピタル政策展開
報告者　東北大学　西出氏
〇ソーシャル・キャピタル計測とその政策的インプリケーション
報告者　（財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構　石田氏</td></tr>
<tr><td>配布資料</td><td colspan="2">資料１　ソーシャル・キャピタル政策展開にかかる報告要旨
資料２　ソーシャル・キャピタルとヒューマン・キャピタル（原氏報告のレジュメ）
資料３　海外におけるソーシャル・キャピタルの政策展開（西出氏報告のレジュメ）
資料４　政策展開におけるソーシャル・キャピタルの計測（石田氏報告のレジュメ）
資料５　次回研究会申込み用紙
参考資料１　ソーシャル・キャピタルに関するアンケート調査中間報告</td></tr>
<tr><td>受領資料</td><td colspan="2">日本ＮＰＯ学界ニューズレター</td></tr>
</table>

以下　敬称略

議事詳細

１．開会

～事務局代表挨拶

事務局：本日は報告者の先生方をお迎えし、一般聴講者にも起こしいただき、公開形式の研究会とした。参考資料 1 は次回研究会で詳細に説明するため、本日は取り扱わない。

２．議事　ソーシャル・キャピタル政策展開について

〇ヒューマン・キャピタルとソーシャル・キャピタル

（社）北海道未来総合研究所　原理事長による報告

＜質疑応答＞

聴講者：ソーシャル・キャピタル指標項目のひとつとして研究で取り上げられておられる「社会参加ネットワーク」について、「一人あたり NPO 数」を構成要素とする目的を教えて頂きたい。また、政治学の考え方と相違があるようなので、ご研究のソーシャル・キャピタルにおける取引費用の考え方を教えて頂きたい。

西出氏：ソーシャル・キャピタル指標項目の一つである社会参加支援について、構成要素はハードに対する支援とも読み取れないことはないが、それ以外の構成要素の可能性について教えて頂きたい。構成要素によって結果が変わることも考えられるかも知れない。

原氏：最初に「一人あたり NPO 数」についてお答えする。NPO には量的な面と質的な面があり、本研究ではＮＰＯの自発性に着目して量的な面である「一人あたりＮＰＯ数」を採用した。また、取得可能な統計データが少ないという課題は大きく、そうした事情をお含み置きいただきたい。

次に「社会支援活動」についてお答えする。採用した構成要素は都道府県と市町村に共通する指標である。都道府県と市町村に共通する指標は数が少なく、本研究ではこれら 3 つの構成要素を採用した。

最後に「取引費用」についてお答えする。ソーシャル・キャピタルの研究では、取引費用が明示されていない。政治学で使われている取引費用の分類をソーシャル・キャピタルに応用して分析することはできないという現状がある。

東氏：シリコンバレーにおけるソーシャル・キャピタルはどのように捉えれば良いのか。ヒューマン・キャピタルとのどちらがシリコンバレーの発展のメインドライバーとなっているとお考えか。

原氏：ヒューマン・キャピタルは 3 つの T（タレント、トレランス、テクノロジー）の要素を持った地域で醸成されている。したがってシリコンバレーはテクノロジーがメインであるものの、タレント、トレランスの醸成具合が把握できない。その意味でシリコンバレーの発展原因をヒューマン・キャピタルと断定することが出来ない。

山内氏：今後、理論的にソーシャル・キャピタルとヒューマン・キャピタルの相関を詳細に裏付けていく必要があるだろう。産業ごとにクリエイティブクラスかどうかを判断する場合、クリエイティブクラスではないと判断された職業の人は反感を抱くことも考えられるので、それなりの説明が必要となるだろう。

〇海外におけるソーシャル・キャピタル政策展開

東北大学　西出准教授による報告

＜質疑応答＞

澤井氏：西出先生のご報告から、ソーシャル・キャピタルは経済政策を伴う社会政策という解釈をした。したがってソーシャル・キャピタルはガバナンス的であり、市民社会のベースとした民主主義のあり方にソーシャル・キャピタルはいかに貢献す

るのかという点が重要であると理解した。この解釈で大きく外れていないか。

西出氏：確かにソーシャル・キャピタルには政治社会的領域が大きく占めている。ただしレジュメ表１を見て頂くと、カナダやアイルランドは貧困対策にソーシャル・キャピタルの視点を取り入れている。したがって、地域経済との関係も考えられるだろう。

澤井氏：日本もソーシャル・キャピタルを地域経済の活力向上のための政策として期待を寄せている。しかし今回の報告において、日本ではその政策を行うことは難しいのではないかと感じた。したがって経済成長の要因となりうるのかということは今後の研究課題となるだろう。

聴講者：ソーシャル・キャピタルを計測する際の課題として、現在のソーシャル・キャピタルを計測するケースと、今後新たに醸成されるソーシャル・キャピタルを計測するケースが考えられるが、その連続性をどう担保し、政策を検討していけば良いのかを教えて頂きたい。

西出氏：手法のひとつとして、現時点でのソーシャル・キャピタルを計測し、それを継続することによって新しいソーシャル・キャピタルを把握するという方法が考えられる。また、定量的分析には限界があるので、定性的分析も必要だろう。

山内氏：本研究会においても内閣府に準じた定量的アンケート調査を実施し、事務局から次回報告があるということなので、政策がどうかかわっているのかも分析できる期待が若干程度はある。

聴講者：西出氏のご報告の中で、「ソーシャル・キャピタルを壊さない政策」に共感を持った。壊さない政策という意味での海外事例をご存知であれば教えて頂きたい。

西出氏：OECD やイギリスで重視されている政策がある。例えば、NPO に対する財政的支援について、特定団体を支援するとそれ以外の団体が醸成したソーシャル・キャピタルを壊す可能性があり、留意する必要があると言われている。また、ソーシャル・キャピタルのマイナス面を考慮する必要もあるという意味で、「壊さない政策」と表現した意図がある。例えば、結束型は排他的な社会をつくる可能性があり、留意する必要があるなどである。

山内氏：さらに、「壊さないまちづくり」も重要である。

西出氏：中越地震の仮設住宅では、地域の人が集まって仮設住宅に住むことでソーシャル・キャピタルを維持した。

○ ソーシャル・キャピタル計測とその政策的インプリケーション
（財）ひょうご震災記念２１世紀研究機構　石田研究員

＜質疑応答＞

山内氏：計測結果は結果だけが一人歩きしてしまう傾向がある。したがってアンケートの聞き方や単位など、調査設計を綿密に行う必要があるという報告であった。

原氏：ソーシャル・キャピタルには重層性があるので、括りによって結果が異なるという問題を克服する必要がある。また、スウェーデンではネットワーク分析の手法を用いて、地域通貨を利用している人がどの程度の信頼性を持っているか調査した研究がある。したがって重層性を考慮して分析を行わなければならない。私の考えとして、関係性において最も重要な要因はコミュニケーションであると捉えているが石田先生の解釈はどうか。

石田氏：確かにネットワーク分析を用いてソーシャル・キャピタルを重層的に評価することは可能である。しかし、その人個人が最も重要とする関係は分析できない。ソーシャル・キャピタルが醸成される大きな要因として、その同じ経験をするということがあるが、コミュニケーションは経験を共有する上では重要だろう。

原氏：コミュニケーションについてはゲーム理論で理論的な検証がなされている。また、実際に阪神大震災では多くのボランティア活動があった。阪神大震災のボランテ

ィア活動は日ごろのコミュニケーションによって培われたものである。

石田氏：阪神大震災でも犯罪はあったが、他国と比較するとその数は少なく、原氏のおっしゃる通りかも知れない。実感はある。

聴講者：ソーシャル・キャピタルは広い意味でのコミュニティ論と考えている。例えば、ソーシャル・キャピタルを県民と行政の関係性の評価に使ってはどうか。

石田氏：今後の研究課題と考えている。

聴講者：以前からスポーツとソーシャル・キャピタルの関連性を研究してきたが、ソーシャル・キャピタルの必要性を説明することに苦労した経験がある。ソーシャル・キャピタルの必要性を説明する方法を教えて頂きたい。

西出氏：確かにソーシャル・キャピタルは曖昧な概念であり、明確な説明は難しい。国民生活白書で使っている「つながり」という言葉が分かりやすいだろう。また、政府のトップの人が重要性を説くと効果は大きいだろう。

山内氏：日常的なスポーツ及びイベントとしてのスポーツとソーシャル・キャピタルの関係性は深い。例えば、スポーツイベントではボランティアに活動してもらうことによってソーシャル・キャピタルを高めることができる。

聴講者：市民マラソンとソーシャル・キャピタルの関係を研究している。

聴講者：ソーシャル・キャピタルの尺度の問題についてお伺いしたい。ネットワークや信頼をまとめて単一尺度としていいのか教えて頂きたい。例えば、構造的ソーシャル・キャピタルや認知的ソーシャル・キャピタルを区別したほうがよいのだろうか。

石田氏：マクロの検証とミクロの検証の関連性を分析することが重要となるだろう。

山内氏：農林水産省では因子分析を用いて研究している。因子分析の解釈は難しいが、統計的解析をしているという点で評価できる。

事務局：次回研究会も一般公開の形式とし、12 月 19 日 13 時～の開催とする。

以上